

1. 専攻・募集人員及び修業年限

区分	募集人員			修業年限
	前期募集	後期募集	合計	
園芸学専攻	2人	2人	4人	2年
食品科学専攻	1人	1人	2人	

2. 出願資格

次のいずれかに該当する者

- (1) 大学を卒業した者及び平成24年3月卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者
- (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者及び平成24年3月修了見込みの者
- (4) 文部科学大臣が指定した者
- (5) 本大学院において、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

3. 試験日程

試験区分	出願期間 (必着)	試験日	合格発表	入学手続締切日	
				一次	二次
前期試験	9月 5日(月)～9月16日(金)	9月22日(木)	9月28日(水)	10月11日(火)	10月28日(金)
後期試験	2月 6日(月)～2月20日(月)	2月24日(金)	2月29日(水)	3月 9日(金)	3月29日(木)

4. 出願書類

- (1) 入学志願票 本学所定の用紙
- (2) 出身大学の卒業(見込)証明書
- (3) 調査書 本学所定の用紙
- (4) 写真 最近3か月以内に撮影した上半身正面無帽の写真(縦4cm×横3cm) 2枚を入学志願票及び受験票に貼付すること。
- (5) 入学検定料 35,000円 郵便局で普通為替証書(受取人欄等には一切記入しないこと)に換えて出願書類に同封すること。
- (6) 受験票送付用封筒 本学所定のもの(住所・氏名明記, 速達料相当切手<350円>貼付)
- (7) 前期試験で不合格になった者が、後期試験への出願をする場合、入学検定料を免除します。また、調査書の再提出は不要です。

5. 出願期間 (期間内必着のこと)

前期試験	9月 5日(月)～ 9月16日(金)
後期試験	2月 6日(月)～ 2月20日(月)

6. 試験日時及び試験場

区分	試験日	学力試験	面接	試験場
前期試験	9月22日(木)	9:30～11:30	13:00～	園芸学専攻—本学 (都城キャンパス) 食品科学専攻—本学 (宮崎キャンパス)
後期試験	2月24日(金)	9:30～11:30	13:00～	

7. 選抜方法及び試験科目

- (1) 選抜方法
 学力試験，面接，書類審査の結果を総合して可否を決定します。
- (2) 学力試験（筆記試験）
 分野ごとに，下表に掲げる科目を受験すること。なお，別表（P5～10）を参考にして
 ください。

【園芸学専攻】

分野	研究室	試験科目（3科目）		
		必須科目（2科目）	選択科目（1科目）	
園芸生産科学	花卉園芸学	英語	花卉園芸学	第2志望のある者は，志望する研究室の必須科目を選択
	環境保全園芸学		環境保全園芸学	
	蔬菜園芸学		蔬菜園芸学	
	園芸土壌学		土壌学	
園芸資源科学	園芸資源利用学		園芸資源利用学	
	園芸育種学		植物育種学	
	植物病理学		植物病理学	
	園芸昆虫学		応用昆虫学	

【園芸学専攻】

分野	研究室	試験科目（2科目）	
環境保全	緑地保全学	英語	緑地保全学，環境植物学，資源植物生産学の中から1科目選択
	環境植物学		
	資源植物生産学		
農業経済学	農村計画学	英語，森林政策学，農産物マーケティング論，資源循環型社会論の中から2科目選択	
	農産物貿易		
	資源循環型社会論		

【園芸学専攻】

分野	研究室	試験科目（2科目）	
造園学	庭園デザイン学	英語	造園史，景観論，都市公園論，緑化学，造園学原論の中から1科目選択
	地域景観学		
	造園計画		
	緑地生態工学		
	空間情報形成学		

【食品科学専攻】

分野	研究室	試験科目（2科目）	
食品微生物	微生物利用	英語	食品微生物学
食品化学	食品機能化学	英語	食品化学
	食品栄養機能		
	食品栄養化学		
食品生化学	細胞防御	英語	食品生化学
	食品健康科学		
	食品分子制御		
	分子代謝制御学		

※英語については、各専攻とも辞書持ち込み可。ただし、電子辞書及び専門用語集に類するものは除く。

8. 合格発表

合格発表日	前期	平成23年 9月28日（水）
	後期	平成24年 2月29日（水）

- (1) 合格者の受験番号を学内に掲示（午前10時）し、合否結果を本人宛郵送通知します。
- (2) 電話による合否の問い合わせには一切応じません。

9. 入学手続

入学手続締切日	納期	一次	二次
	前期	平成23年10月11日（火）	平成23年10月28日（金）
	後期	平成24年 3月 9日（金）	平成24年 3月29日（木）

- (1) 入学手続についての詳細（納入金の納付方法・手続方法等）は、合格者宛通知します。
- (2) 合格者は、入学手続締切日までに所定の納入金を納付してください。
一次手続：入学金のみ 二次手続：入学金以外の納入金
- (3) 指定の期日までに、入学手続をしない場合は、入学を許可しません。

10. 納入金

年 度	平成24年度（1年次）		平成25年度（2年次）	
納 入 期	手 続 時	10月1日	4月20日	10月1日
入 学 金	250,000			
授 業 料	330,000 (245,000)	330,000 (245,000)	330,000 (245,000)	330,000 (245,000)
合 計	580,000 (495,000)	330,000 (245,000)	330,000 (245,000)	330,000 (245,000)

※授業料には、施設設備費及び実験実習費が含まれています。

※（ ）は、農業経済学分野の学費です。

※本学及び南九州短期大学卒業生の入学金は半額となります。

委託徴収金

区分	金額	入学時
保護者会費	12,000円	

◎保護者会費中には、学生教育研究災害傷害保険料が含まれております。2年次も納入してください。

11. 入学辞退について

入学手続完了者が、平成24年3月30日（金）までに入学を辞退した場合は、本人の申し出により、納入金のうち入学金を除いた額を返還します。

12. 社会人入学の対応について

自営、会社員、学校教員等で就業しながら大学院に入学を希望する社会人については、入学後に夜間、土・日・祝日、夏期休暇等に授業を集中して実施することも可能ですので、あらかじめ所属希望の指導教員と相談して、勤務に支障のない授業時間を設定するようにしてください。

13. 個人情報の取扱いについて

入学志願票に基づいて登録された個人情報(住所・氏名・電話番号等出願書類記載事項)は、「南九州学園個人情報の保護に関する規程」に基づき、次の事項について利用いたします。

(1) 入学試験実施

- ① 受験票送付
- ② 受付票

(2) 合格発表

- ① 合格掲示(受験番号のみ)
- ② 合否通知
- ③ 入学手続書類発送

【ティーチング・アシスタント制度】

大学院生が大学学部または南九州短期大学において教育補助業務を行った場合に、給与を支払う制度です。詳細は学生支援課にお問い合わせください。

(別表－1)

園芸学・食品科学研究科分野別研究室及び担当教員

1. 園芸学専攻

分野	研究室	担当教員	現在の主な研究内容
園芸生産科学	花卉園芸学	教授 土岐 健次郎	(1) 花卉の花色発現機構の解明と育種及び栽培への応用 (2) 花卉のフラボノイド成分による類縁関係の解析
	環境保全園芸学	教授 山口 健一	(1) 生物機能を利用した植物栽培環境の保全 (2) 侵略的外来雑草の生物的制御に関する研究
	蔬菜園芸学	教授 陳 蘭庄	(1) 宮崎の在来野菜品種の振興と野菜品種改良に関する栽培及び育種学的研究 (2) アポミクシスの作物品種改良に関する細胞学及び生物工学的研究
	園芸土壌学	准教授 柳 由貴子	(1) 腐植物質の生物学的分解機構の解明 (2) 土壌有機物の植物並びに微生物の生育に及ぼす影響の解明
園芸資源科学	園芸資源利用学	教授 山口 雅篤	(1) 園芸植物の嗜好性及び機能性成分の生合経路と発現調節の解明 (2) 植物色素の資源開発に関する研究
	園芸育種学	教授 杉本 和宏	(1) 園芸作物の再分化及び雌雄性発現制御に関する遺伝育種学的研究 (2) 園芸作物のストレス耐性に関する遺伝育種学的研究
	植物病理学	教授 菅野 善明	(1) 植物における病原体の同定及び診断 (2) 微生物利用による園芸植物の病害制御
	園芸昆虫学	准教授 新谷 喜紀	(1) 園芸植物害虫の生活史の解明 (2) 昆虫の季節適応機構の解明と害虫管理への応用
環境保全	緑地保全学	教授 北村 泰一	(1) 溪流における水生生物群集の動的保全とその適用について (2) 水辺林再生による汽水域生息環境の保全
	環境植物学	教授 長谷川 二郎	(1) コケ植物の分類と植物地理学的研究 (2) 植物の種多様性の解析とその保全に関する研究
	資源植物生産学	教授 廣瀬 大介	(1) 作物の施肥窒素に対する応答解析 (2) 作物の根系形成特徴の解明

分野	研究室	担当教員	現在の主な研究内容
農業 経済 学	農村計画学	教授 渡辺 昭治	(1) グリーンツーリズムを中心とする中山間地域の振興方策の研究 (2) 地域林業の形成における国産材産地化の方向性の解明
	農産物貿易	教授 姜 暲求	(1) 日中韓の園芸農産物貿易の構造分析 (2) 日中韓農産物流通の比較研究
	資源循環型社会論	准教授 章 大寧	(1) 資源循環型社会の法制度・政策 (2) 食料廃棄物・生ごみの資源化
造園学	庭園デザイン学	教授 永松 義博	(1) 公園のユニバーサル・デザイン計画と設計に関する研究 (2) 歴史的日本庭園の地域特性に関する研究
	地域景観学	教授 平岡 直樹	(1) 公園緑地計画理念の伝播と変容に関する研究 (2) 地域の景観に関する研究
	造園計画	教授 関西 剛康	(1) 近代ランドスケープデザインの構築に関する研究 (2) 禅宗庭園の文化的背景に関する研究
	緑地生態工学	准教授 竹内 真一	(1) 緑地生態工学に関する研究 (2) 植物体内の水移動に関する研究
	空間情報形成学	准教授 岡島 直方	(1) 緑空間とそれを作りだした人の問題意識との関係性についての研究 (2) 緑空間創出の実践的研究

2. 食品科学専攻

分野	研究室	担当教員	現在の主な研究内容
食品微生物	微生物利用	教授 外山 英男	(1) 有用微生物の細胞工学的育種・改良に関する研究 (2) 有用微生物の選択と評価に関する研究
食品化学	食品機能化学	教授 寺原 典彦	(1) 食品の健康維持機能成分に関する研究 (2) ポリフェノール類の構造と生理活性の相関に関する生物有機化学的研究
	食品栄養機能	教授 伊藤 薫	(1) 食品成分機能が生体に与える影響 (2) 生活習慣病と食生活との関連
	食品栄養化学	准教授 竹之山 愼一	(1) みやざき特産の食品の栄養についての研究 (2) バイオサイクルによる食品の栄養についての研究
食品生化学	細胞防御	教授 金松 澄雄	(1) 酸素に対する細胞防御の分子生物学的機構 (2) 活性酸素消去系の分子進化
	食品健康科学	教授 山田 光子	(1) 食環境の安全性に関する研究 (2) ヒト代謝能の遺伝的差異と健康との関連について
	食品分子制御	准教授 中瀬 昌之	(1) 食品アレルギー原因タンパク質の同定 (2) 食品アレルゲン遺伝子の発現調節に関する研究
	分子代謝制御学	准教授 紺谷 靖英	(1) 肥満の分子機構に関する研究 (2) 抗肥満効果を有する食品成分の検索

(別表-2)

園芸学・食品科学研究科専攻別開講科目及び担当教員

1. 園芸学専攻

分野	科 目	単 位	担 当 教 員	内 容
園 芸 生 産 科 学	花卉園芸学特論Ⅰ・Ⅱ 花卉園芸学特別演習Ⅰ・Ⅱ 花卉園芸学特別実験	各2 各2 12	教 授 土岐 健次郎	花卉園芸学，環境保全園芸学，蔬菜園芸学及び園芸土壌学の4専攻科目を置き，園芸植物の生理・生態，栽培法，栽培環境の保全，品質等，園芸生産に関する基礎的・応用的研究教育を行う。
	環境保全園芸学特論Ⅰ・Ⅱ 環境保全園芸学特別演習Ⅰ・Ⅱ 環境保全園芸学特別実験	各2 各2 12	教 授 山口 健一	
	蔬菜園芸学特論Ⅰ・Ⅱ 蔬菜園芸学特別演習Ⅰ・Ⅱ 蔬菜園芸学特別実験	各2 各2 12	教 授 陳 蘭庄	
	園芸土壌学特論Ⅰ・Ⅱ 園芸土壌学特別演習Ⅰ・Ⅱ 園芸土壌学特別実験	各2 各2 12	准教授 柳 由貴子	
園 芸 資 源 科 学	園芸資源利用学特論Ⅰ・Ⅱ 園芸資源利用学特別演習Ⅰ・Ⅱ 園芸資源利用学特別実験	各2 各2 12	教 授 山口 雅篤	園芸資源利用学，園芸育種学，植物病理学及び園芸昆虫学の4専攻科目を置き，生物資源の効率的利用，園芸植物の遺伝育種，病害虫の同定及び発生生態に関する基礎的・応用的研究教育を行う。
	園芸育種学特論Ⅰ・Ⅱ 園芸育種学特別演習Ⅰ・Ⅱ 園芸育種学特別実験	各2 各2 12	教 授 杉本 和宏	
	植物病理学特論Ⅰ・Ⅱ 植物病理学特別演習Ⅰ・Ⅱ 植物病理学特別実験	各2 各2 12	教 授 菅野 善明	
	園芸昆虫学特論Ⅰ・Ⅱ 園芸昆虫学特別演習Ⅰ・Ⅱ 園芸昆虫学特別実験	各2 各2 12	准教授 新谷 喜紀	
環 境 保 全	緑地保全学特論Ⅰ・Ⅱ 緑地保全学特別実験	各2 8	教 授 北村 泰一	本分野では，地球生態系についての理解と認識を深め，人間が自然と調和を保ちながら生きていくための方策を模索することを目的として，研究教育を行う。このため地球生態系の構成に係わる3つの因子，有機的自然（緑地保全学），植物的自然（環境植物学），生産的自然（資源植物生産学）の性質について学ぶと同時に，それらを分析するための理論と実際的な技術を修得する。
	植物分類学特論 環境植物学特論 環境植物学特別演習	2 2 8	教 授 長谷川 二郎	
	資源植物生産学特論Ⅰ・Ⅱ 資源植物生産学特別演習	各2 8	教 授 廣瀬 大介	

分野	科 目	単 位	担 当 教 員	内 容
農 業 経 済 学	森林政策学特論Ⅰ・Ⅱ 森林政策学特別演習	各 2 8	教 授 渡 辺 昭 治	本分野では、現状分析として生産から流通までを政策分析として森林政策学、農産物マーケティング論、持続可能な社会構築に向けた研究分野として資源循環型社会論を配置している。学生は担当教員の講義及び演習を中心に勉学を進め、専門的分析力を修得するとともに、他教員の講義科目の受講により全体的視点と自らの研究の意義を認識し、応用力を高めることができる。
	農産物マーケティング論Ⅰ・Ⅱ 農産物マーケティング論特別演習	各 2 8	教 授 姜 暲 求	
	資源循環型社会論特論Ⅰ・Ⅱ 資源循環型社会論特別演習	各 2 8	准教授 章 大 寧	
造 園 学	庭園学特論Ⅰ・Ⅱ 公園設計学特別演習	各 2 8	教 授 永 松 義 博	本分野では、身近な住空間から健康や福祉まで配慮した公園の計画設計学、近代的なランドスケープデザインと伝統的な庭園を対象とする造園計画論、開発に伴う自然破壊を修復する理論と技術を追求する緑地生態工学、地域特性を軸にした景観学、緑空間と人間の関係性を多様な方面から探究する空間情報形成学という5つのテーマを柱に研究教育活動を行う。学生は担当教員の指導のもとに学習・研究を通じて専門性と汎用性、さらに自己発展性を獲得する。
	地域景観学特論Ⅰ・Ⅱ 地域景観学特別演習	各 2 8	教 授 平 岡 直 樹	
	造園計画特論Ⅰ・Ⅱ 造園計画特別演習	各 2 8	教 授 関 西 剛 康	
	緑地生態工学特論Ⅰ・Ⅱ 緑地生態工学特別演習	各 2 8	准教授 竹内 真一	
	空間情報形成学特論Ⅰ・Ⅱ 空間情報形成学特別演習	各 2 8	准教授 岡島 直方	

2. 食品科学専攻

分野	科 目	単 位	担 当 教 員	内 容
食 品 微 生 物	微生物利用特論Ⅰ・Ⅱ 微生物利用専攻実験	各2 16	教 授 外山 英男	食品に関わる微生物を研究と教育の対象とする。微生物利用の科目を置き、微生物の菌体や有用産物などの機能に関すること、食環境や生活・健康における微生物とその機能の利用に関すること、バイオテクノロジーによる食品微生物の育種開発に関すること、さらには食品や生活・健康における微生物侵害のこと等の基礎的・応用的研究教育を行う。
食 品 化 学	食品機能化学特論Ⅰ・Ⅱ 食品機能化学専攻実験	各2 16	教 授 寺原 典彦	食品の特性や機能について有機化学、食品化学、栄養化学、薬理学などを基に解析・応用する研究指導を行う。特に健康維持や生活習慣病の予防に有効な食品中のポリフェノール類やその他新規有効成分の構造解析や生体に及ぼす影響を検討すると共に、それらを含む食品が加工や保存の過程で受ける機能、特性の変化を分子及び個体レベルで把握する研究を行う。更に、機能性成分を健康維持食品に展開する応用的研究を行う。
	食品栄養機能特論Ⅰ・Ⅱ 食品栄養機能専攻実験	各2 16	教 授 伊藤 薫	
	食品栄養化学特論Ⅰ・Ⅱ 食品栄養化学専攻実験	各2 16	准教授竹之山慎一	
食 品 生 化 学	細胞防御特論Ⅰ・Ⅱ 細胞防御専攻実験	各2 16	教 授 金松 澄雄	食品成分の機能解析と機能性食品の開発、未利用生物資源の活用などにより、食生活が多様化してきている。しかしその安全性や機能についてはまだ知られていないものも多い。生物を化学的視点から理解するとともに、それらに関する先端知識と技術を習得し、その上で、健康、疾病予防に関与する食品機能学、栄養生化学、食品分析学や食品安全学などを遺伝子やタンパク質の研究をもとに専攻実験を通して重点的に指導する。
	食品健康科学特論Ⅰ・Ⅱ 食品健康科学専攻実験	各2 16	教 授 山田 光子	
	食品分子制御特論Ⅰ・Ⅱ 食品分子制御専攻実験	各2 16	准教授 中瀬 昌之	
	分子代謝制御学特論Ⅰ・Ⅱ 分子代謝制御学専攻実験	各2 16	准教授 紺谷 靖英	